

大益を切られたら、製糖工場の
業は絶頂に達し形勢益々混乱なり
たす役所側の解答曖昧なるを以て職
工等、再び工場の各所に三々五葉

所罷業

側要求条件 後六時回答 にて復業す

てありし八幡製鐵所職工は、果然五
次に至るまで出勤と同時に怠業
勢を示し来りしが午前七時頃
門前に集まり協議を凝らし

給を引直すこと
職者に對しては支給せよ
平等に三割支給すること
三割を支給すべし
してローカ工場山田守三
職任芳一、編物工場島井重雄
員として中川次長と面會し
中川次長より来る七日午後
官は引取職工一同もその旨
て午後三時頃解散せり(八幡

の約束に一任せんとするは早計
なり政府の議合に提出せんす
る重要議案の一は陸海軍
相の宣言
の約束に一任せんとするは早計
なり政府の議合に提出せんす
る重要議案の一は陸海軍

罷業の経過を語る

中川製鐵所次長談

二、四日

八幡製鐵所職工大盟体に關し同所中川次長を訪問せば其の經
過に就き左の如く語る
四日 午前の事なりし職工の一部より成れる勞友會の連
中五名面會したし各名刺に連名の勞友會員の活字は消された
るものを持参したるを以て長官上京中を理由にして面會を謝絶
したるが強てこの事にて竹下工場課長之に面會し要求並に理
由書を提出し引取りたり同夜は何等仕事もなさず怠業同様の姿
にて翌五日未明より

勞友

會の職工夫等は各工場を威嚇して怠業若しくは
作業を中止せしむべく棍棒を以て窓ガラスを破壊し眞面目に作
業しつゝある者も作業不可能に陥り中には不和雷同して其数多
敷に上り危険極まりなく予は登壇を見合せたるがこの職工團一
千餘名は本館に迫り予に面會を求めたりこの報に接し課長等
登壇したるに先登の自動車に投石したるより正門階切のより引
込し再び

徒歩

登壇漸く群衆の中より代表らしきもの五名に
面談し昨日の要求を人々や否やを迫られたるも予としては何
等責任を負ふ能はず尙も重人案件なるを以て長官の指揮命令に
従はざるべからず故に五名の委員に對しても其の旨を傳へ上京
中の長官に打聽し何等かの解答を尙ら要求の諾否を公表すべし
云々は代表者側は六日の午後六時迄に解答を迫りたるも何分
八幡回は電報連送は二日を早も一日を要するを
以て六日午後までは返電然らずに答へたるに委員等もそれなれ
ば七日午後六時まで延期する旨を殘し引上げ群衆に對しその旨
を傳達し騒散したり白仁長官はこの報に接し歸藩すべく新紙に
傳へられたるが今晩の電報によれば歸所せずとのとなり故に職
工團に對する長官の解答は明日中に來らならんも果して

要求

全部を人々や否や書紙案については長官と協議
せざれば公表し難し然しながら六日午前も不穩の行動各工場に
傳播するを以て取敢ず憲兵警察警署に依頼し警戒を加へ一部の
工場は怠業又は作業中止をなし居るも浴槽は依然作業しつゝ
ある對原勞友會長以下主謀者らしきものは續々拘引られたるも
他の委員等石炭運搬の機關車を自擧げて投石はせずなす未だ

平穩

には期せず又組長を以て組織せる同志會も七日發
言式を舉行する筈なるもこれ等は眞面目なるものばかりなるを
以て何等威嚇するに足らず云々

國民外交協會は左の宣言書を書き
山東遼東に關する日支直接交渉
は國家存亡の岐る、所なり日本
は其軍隊を以て獨逸を驅逐し其
權利を引繼ぎ青島を占領せり況
や青島遼東の公文あり濟順、高
徐兩鐵道契約あるをや何を求む
るも不可なしといふも占領は戰
時状態にして戦後は之を恢復せ
ざるべからず日支協約は脅迫に
よれるものにて國際聯盟の規約
上取消すべきもの、又鐵道契約
は假契約にして効力なし支那は

に於ける獨逸の權利を繼承せる
を承認するに等しく國家の人格
を失ふべし惟ふにアルサス、ロ
ーレンは獨逸の手にある亦五十
年にして佛國に恢復され白耳義
は永久中立國より完全なる獨立
國となれり我が山東問題を解決
せんしせば國民子々孫々山東問
題を忘れざるにあり
又北京教職員聯合會は左の決議を
全歐に通告せり
一、山東問題を國際聯盟に提出し
日本と直接交渉せしむる事
天津にて捕縛せし學生を釋放